

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を作成し、ホーム内に掲示している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいてホームの運営を行っている。日々の業務の中やカンファレンスのときなど、理念について意見を交換し互いに確認し合いながら、入居者の方々と関わりを持つよう取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的に運営推進会議を開催し、家族や地域の方々に、理念に基づいてホームの運営を行っていることを報告している。	もっと多くの方々に、「すまいる」のことまたグループホームのことを知ってもらいたいと思い、ホームページを作成中。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方々は、気軽に話したり、庭に遊びに行ったり、買い物のときに行きあったときなど、声を掛けて頂いたりと日常的なお付き合いをしている。	町内会の行事等にできるだけ多く参加し、お付き合いの和を広げて行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、できる限り活動に参加するよう努めている。また入居者の数名が地区で行っている老人クラブに参加している。	重度化によって行事に参加できる方々が、減少傾向。 ホームで交流会を企画し、地域の方々と交流できる場を自分たちで作ることに取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームとしては、まだまだ地域に貢献するまでには至っていない。が事業拡大を含め高齢者のための住まい作りや宅老的なお泊りサービスなどの話し合い、取り組んでいる。		地域の方々に認知症について、もっと知ってもらえるような取り組みを行って行きたい。また気軽に相談できる事業所にして行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員全員で取り組んでおり、その結果についても日常的に話し合い、業務等に反映させている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、ホームの運営状況について報告し、要望意見についてもホーム運営に反映させている。 概ね2ヶ月ごととされているが、準備が遅れ不定期		定期的に(2ヶ月ごと)に開催し、多くの構成委員の方々と意見交換し、サービスの向上に活かしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営に当たっては、介護保険課など関係機関に確認をとり、時にはアドバイスを受けながら、適正かつ向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者もあり、必要に応じてご家族に説明し、活用を支援できるよう資料等の準備はしている。また職員に対しても機会がある時には、そのことを話題にし、説明している。		職員全員が高齢者の権利擁護について理解するため、研修会等への参加を支援したり、勉強会を行って行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令について、詳細に学ぶことはしていないが、機会がある度にどういうことを虐待というかなど、話題にしている。 身体的にはもちろんのこと言葉についてもお互いに注意を払い、気をつけるよう努めている。		職員全員が虐待について理解するため、研修会等への参加を支援したり、勉強会を行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、必ず文書に基づいて説明を行い、内容について理解をしてもらい、不明な点についても再度わかりやすく説明している。その後も随時疑問等が生じた場合には説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等の処理については、報告書類を作成し、内容や対応についてまとめ、報告し、速やかに運営に反映させている。ホーム内には苦情等の取り扱い機関等のポスターも掲示している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「すまいる便り」を送付し、生活の様子や健康状態などを定期的にお知らせしている。またお預かりしている金銭の出納については、利用料の請求時に明細を報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>13と同様に行っている。また来訪時に意見や要望等を聞くようにし、気軽に言い出せる関係を作り、運営に反映させられるよう努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、会議等において話し合う機会を設けており 職員の意見や要望を運営に反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>時間帯に応じて必要とする人員を確保するための話し合いを行い、勤務の調整を行っている。 3対1以上の人員配置を行い、柔軟に、気持ちに余裕を持って対応できるよう努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>勤務異動する場合はその影響については、十分に検討し、入居者の方々にとって良い効果が得られることを目的としている。が出来るだけ最小限にして、なじみの関係を大切にしている</p>		<p>雇用問題による介護の人材不足を大きく受け止め、採用条件等を見直すなどの取り組みを行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内については、掲示や回覧等で職員に紹介し希望者を募るなど、前向きに取り組み、支援している。 研修によっては、出勤扱いとし、事業所で費用等を負担し段階に応じて育成に取り組んでいる。		研修については、体制・計画性など不十分な点があり、今後さらに整備していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム連絡協議会に参加した際に、情報交換を行っている。		前年度設立されたネットワークへの参加を検討し、交流を深め、勉強会や相互訪問などを行ってきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護の人材不足と入居者の重度化により、3対1の人員体制では余裕がなく、工夫も環境づくりにも取り組んでいるが、なかなかストレス軽減が図りにくい状況である。		職員の人員確保とともに、職員一人ひとりのスキルアップにより、負担軽減を図り、また有給休暇の取得ができる環境を整えて行きたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、月に数回ホームに来られたときに、一部の職員の勤務状況を実際に見ているが、日々変化する状況は把握できていないのが現状。但し状況等を報告し要望を出したことに対しては、前向きに働きやすい環境作りやスキルアップへの支援に努めている。		人材育成を重視した取り組みを行って行きたい。各自が向上心を持って働ける職場づくりに努めて行きたい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受け、入居に至る経緯として、ご本人が納得されているか、現在の住まいからなぜ移らなければならないかをどの程度理解されているかを、ご家族またはご本人に確認し、出来るだけ入居前に見学または面談をさせてもらい直接お話をさせて頂くよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者からは見学をしていただいた上で、入居を希望される方の状態等、入所に至る経緯、困っていることまた不安なこと、要望をお聞きし、できるだけ多くの情報を頂き、安心と信頼をもって入居していただけるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに入ることが、妥当かどうかも含めよく検討している。将来的に別のサービスを視野に入れていく必要があるなど、事前にご家族に打診するなど、状況に応じた対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や面談は行っているが、ショートステイや体験入居等の利用が難しいため、入られてから職員が事前に得ている情報をもとに、一日も早く馴染めるよう努めている。またご家族にも慣れるまでの間、出来るだけ面会していただけるよう協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に物事に取り組んだり、過ごしながら、一人ひとりの個性を知り、一方的な押し付けた関わりにならないよう、喜怒哀楽をともに信頼関係を築けるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	すべての家族とは言えないが、気軽に会話でき、本人とその家族を支え、またお互いに協力し合える関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係については、十分理解した上で、よりよい関係を作って行けるように、家族関係に配慮しつつも本人の落ち着いた生活を一番に、互いに協力し合える関係を作るよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族関係については、十分理解した上で、よりよい関係を作って行けるように、家族関係に配慮しつつも本人の落ち着いた生活を一番に、互いに協力し合える関係を作るよう努めている。		家族と一緒に過ごす時間を出来るだけ多く持てるように働きかけている。 外出、外泊、旅行など
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関わりについては、常に見守りを行って良好な関係が維持できるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後は、家族が他に介護サービスを必要としない場合は、自然と関係が薄くなっているが、必要があればいつでも気軽に相談を受け、支援するつもりでいる。	○	サービス終了後も年賀状や介護サービスの新しいお知らせなど送るなどお付き合いを継続する取り組みをして行く。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや暮らし方の意向を十分に把握し、できるだけ意向に沿えるよう努めている。困難な場合も本人と話し合い、一緒に考えるように努めている。また出来ないことは本人にきちんと伝えるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境、暮らし方など、入居相談時や入居後からの本人や家族等から聞き取りなどを通し、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、また尊重しながら心身の状態が良好に保たれるように日々努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、日々介護に携わっているスタッフを主に、ケアカンファレンスを通じて作成しているが、本人や家族の要望を十分取り入れ反映した計画を作成している。	○	介護計画作成に係るケアカンファレンスに本人・家族に参加してもらう。また直接参加ではない場合は事前にアンケートや聞き取りを行うなど工夫していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、期間及び状態の変化に応じて、ケアカンファレンスを通し見直し、作成している。家族等には定期的に状態、状況等を報告し、また来訪時に要望や意見をお聞きし、必要を話し合い、計画に反映させている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録では、一日の言動や行動またそのときの対応を個別に記録し、アセスメントとしても活用し介護計画作成に生かしている。	○	介護記録の書き方・適切な言葉の表現などもっと学ぶ機会を作って行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望については、その内容により事業所として出来る範囲の中で、柔軟な支援を行っている。 (病院通院の対応や自由な面会時間、また急な外出、外泊の対応、買い物)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向により、地域老人クラブへの参加を依頼、受け入れてもらっている。また行事の際に演芸ボランティアのサークルに毎年依頼している。毎年消防訓練を行い、安全のためのアドバイスを頂き、改善また予防に努めている。	○	地域社会との関わりを継続していけるよう、ボランティアの方々に協力を仰ぎながら、地域とふれあうときを多く持てるよう支援していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人また家族にとって何がよいかを一番に考え、他サービスを利用することを薦めることもある。その時も出来る限りの協力をしている。	○	可能であれば、今年5月にオープンした隣接のデイサービスとの交流を通し、生活に活気と楽しみを取り入れていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はまだ地域包括支援センターとのケアマネジメント等での関わりはないが、関係を築き、今後必要に応じ相談また支援できるよう努めていく。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望やこれまでのかかりつけを大切にしている。時間外また休日でも相談できる協力病院がある。また本人や家族が適切な医療を納得して受けられるよう、かかりつけ医に相談したりまたは家族と相談しながら病院を選択するなど支援している。	○	これまでのかかりつけ医師を大切にしながら、状態に応じて適切な医療が受けられるよう、家族と相談の上病院を選択、診て頂いた医師に1人でも多くグループホームを理解してもらって、治療と今後の協力が得られるよう関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医等認知症に詳しい医師のいる協力病院がある。 かかっている利用者以外でも相談すると適切な治療が受けられるようアドバイスしてくれる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護師がおり、常に健康状態は把握されている。急病や状態の変化に応じてかかりつけ医師に容態報告し受診を行うなど、早期に対応するよう心がけ悪化防止に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院しても家族が対応できないときは、出来る範囲で職員が対応している。また退院に向けても、ホームの看護師が病院関係者と家族とともに出来るだけ早期に退院できるよう連携をとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と早い段階で考えられる今後の状態について話し合いを行ない、本人と家族の意思を尊重し、全員で共有し対応にあたっている。かかりつけ病院の相談員を通し、家族の意向を伝え、病院や医師の協力体制について相談している。受け入れ体制がない場合は適切な病院等を紹介してもらうなどの協力を仰ぎ、体制を整える支援を行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの暮らしが継続できる限界まで、かかりつけ医と連携しながら、自分たちの出来る精一杯の支援を、行なっている。		かかりつけ病院の体制によっては、他の医療機関への転院を余儀なくされることもあるが、かかりつけ医と十分話し合い、病院相談員と連携し情報交換等密に行い、継続して、本人と家族等が納得した終末期を送れるよう支援している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所し、別な場所に移り住む場合、これから家族や本人と関わっていくケア関係者にこれまでの生活状況やADLの状態など知り得た情報をすべて提供し、スムーズに次の生活の場に移行できるよう協力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重した言葉かけに注意し、また対応している。 記録や個人ファイルは事務所内に保管し、関係者以外は見れないよう配慮している。	さりげない対応と言葉がけを心がけている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	表情や行動の観察を行い、本人が言いたいことややりたいことを希望に沿って行えるように支援している。自分で選択してすることを大切にしながら、ゆっくりとあせらさず、ひとりひとりのペースに合わせた対応を心がけている。	言葉と行動が伴わないことが多々あり、また言葉にならないことも多い。これまでの生活習慣等を周知し、言動や行動の予測を立て、やりたいことを聞き出し思いを理解するよう努めた支援を行なっている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者優先の方針で対応を行い、やむを得ず待つ頂く場合もきちんとその理由を説明している。一人一人の過ごし方を大切にしながら、希望に沿った支援を行なっている。	ひとり行動など希望する場合は、本人の状態を本人・家族とおこり得るリスク等含め話し合い、同意の上行っている。その場合も職員は、その日の状態に応じてさりげなく安全について確保できるよう支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれができるように支援している。 美容院や床屋はいきつけのところに送迎し、行けるうちはできる限り利用するよう支援している。出来ない場合も出張美容師に来て頂いている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備や後片付けをしてもらうように働きかけている。食事も好みのものをメニューに反映させたり、食べられないものや体調により個別に対応している。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコ等、個別に対応している。が中に禁酒禁煙の方や糖尿病でおやつを我慢している方がいるため、そういう方々に配慮しながら行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、できるかぎり日中のオムツや紙パンツの使用を減らす、努力は行っている。トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行い、その都度声をかけ、誘っている。が週2回程度の入浴をされる方が多い。時間や回数は本人の希望に沿って支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の過ごし方を尊重し、その日の全体の状態やお天気で活動を計画し声がけている。参加は自由。また生活の活動時間が乱れない程度に好きな時に休み、寝られるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活のあり方や趣味ややりたいこと、夫々の思いに沿って生活支援している。安全と安心を考え、家族と話し合い、週1回の外泊や好きな時に散歩に出るなど気晴らしの支援も行なっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持っていることも大切ではあるが、そのことが弊害となる場合もあるため、金銭の所持については、本人の状態など考慮し、家族と話し合って決めている。職員が持って行き、買い物に行ったときに手渡し使えるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関は施錠していないので、いつでも好きな時に戸外に出かけられる。安全確保のため、職員が見守り、一人で出ても後からさりげなく一緒にいるよう配慮している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お天気など配慮しながら、行きたい人や全員でドライブに行ったり、普段いけなところに行ったりと楽しんで頂いている。家族に相談し、家族との外出等の支援も行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はないが、かけたいときに相手先の時間等を配慮しながら事業所の電話で支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に自由に友人や家族、親戚などの訪問が出来るよう、配慮している。 特に面会時間の設定はしていない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを原則に、してはいけない行為についても、話し合い理解している。		勉強会や研修等を計画的の行い、全員が身体拘束について理解できるように、取り組んで行きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	希望者があり、居室のドアに施錠を取り付けているが、本人が掛けない限り、使用していない。また安全のため極力施錠しないよう呼びかけている。		他の入居者が誤って、入室のではないかと不安で施錠される方がいるが、繰り返し説明をし、安心して暮らせるよう働きかけている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に見守りを行い、利用者の所在を確認し、安全確保に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や衛生材料など危険な物は、極力目に入らないよう保管に努め、使用後もあった場所に戻し、置き忘れのないよう心がけお互いに注意している。ハサミやつめきりなど利用者が1人で使う場合も、職員が見守り、使ったあとも所在を確認している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告やヒヤリ・ハットを通し話し合い、危機感を常に持って対応に当たっている。		何も起こらないことで安心し気が緩まないよう、リスクマネージメントについて定期的な勉強会と意識改革を行って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一人一人の状態に応じて、起こりうる事故など、その防止策や対処方法をまとめた急変時マニュアルや防災マニュアルなど作成し、また避難訓練等行い事故防止に取り組んでいる。		全員ではないが、普通救命救急の講習を受けている。まだ受けていない職員についても、講習を受けられるよう調整していきたい。 定期的に訓練も実施する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災による避難訓練は定期的に行っている。災害時の避難経路や避難方法について、会話の中に出ることがある。近隣の方々とは近所付き合いはできているが災害時の協力体制についてはこれからである。		町内会などの会合に参加した折に、協力をお願いし、体制を整備していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	持病など起こり得るリスクについて、入所の時に説明したり、状態に応じて家族に対応策や方針について相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を早期に発見するため、日々努めている。異変を発見した折には、速やかに報告し、状況に応じた対応を行っている。		介護をする上での気づきを強化できるよう、研修や勉強会を定期的に計画していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、職員が一人ひとりに使用している薬について、十分理解したうえでやっている。変更があったときも連絡し確認するよう努め、症状の変化等を観察し、報告している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については、日頃より重要なこととして認識し、予防と対応を行っている。薬だけではなく、食事や水分また身体を動かすことなど工夫し取り組んでいる。		便秘がちであっても、排便の状況をなかなか確認取れない利用者に対して、どのように対応していくか思案中。とりあえず直後の匂いとトイレに入っている時間で声をかけ、有無のみ確認している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ほとんどの方が入れ歯を使用している。自分で洗浄している方でも、ポリドントなど定期的に行っている。自分で出来ない方は、職員が介助で行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分や食事量のチェックを行っている。一人一人の栄養バランスを考え、補食などの対応も行っている。また食べやすいよう刻み食にしたり、希望の副食を個別に対応している。多くの種類の飲み物を用意し、こまめに声がけしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザの予防接種は、職員も含め全員に行っていたりしている。また感染症のマニュアルを作成し、消毒等は日常的に実施している。職員はこれまでの経験で感染症の知識またリスクについて、十分理解し日々予防のため努力している。		流行時の外出や面会の制限、そして定期病院受診などで感染しないよう対策をたて、さらに感染予防を強化していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染症予防と同様、衛生管理に努めている。取り決めがあり、消毒等の衛生管理は日常的に行われている。食材の管理の新鮮さと安全な食材を第一に考え取り組まれている。		冷蔵庫や冷凍庫など過信しないよう、日付の管理や作り置きをしないなど徹底し、定期的にチェックしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に畑や花壇を作って、近隣の方や来訪者にも楽しんでもらっている。また玄関前は階段とスロープになっているが、手すりが設置されているので、安全に安心して出入りできるようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう、配慮している。日差しが差し込むときは、ブラインドを下げ、トイレ使用後は匂いがいいよう消臭剤を使用するなどしている。季節の花を生けたり、観葉植物を置くなど工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室に行き来し、おしゃべりもしている。また廊下にベンチを置き、1人で外を眺めたり、居間のソファ、食卓と自由に思い思いの過ごし方をされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には極力使い慣れたものを持ち込んでほしいことを説明しているが、状態によっては全員が好みのものを持ち込み活かしているわけではない。ただ居心地よく過ごせるよう配置等は工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員が換気や空調に気を配り、状況に応じて適時温度調整等行っている。が職員の感じる体感温度と差があったり、汗をかきながらでも寒いと換気を断られたりすることも多い。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっている。また入居者の必要な場所に手すりや家具等を設置し、安全に安心して自立した生活ができるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表示や目印など工夫し、また見守りを行いさりげないサポートを心がけ、自尊心を傷つけずに混乱や失敗がないように配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには出るのに段差があるためか、ほとんど出ない。屋外では玄関の両脇に畑や花壇があり、時期には草花取りや収穫など楽しまれている。近くの公園や町内を散歩したり、自分の能力の範囲で活動を楽しんでいる。		中庭の整備が進んでおらず、あまり活用されていない。 今年こそは、整備に手をかけ活用できるようにしたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人の生活のペースを大切にしながら、現在の体調又体力を維持できるよう配慮した関わりと活動を支援し、そのときの状態に合わせ、柔軟に個別対応を心がけ、家族と相談、連携を図りながら居心地のよい、自分の居場所として落ち着いた生活が出来るように取り組んでいる。  
隣接のデイサービスとの交流や地域老人クラブまた町内会活動の参加、買い物や理美容院の利用など、出来るかぎり地域社会との関わりを持ちつつ、ホームでの生活が可能な限り、家族の方々に対しても一所懸命自分たちが出来る支援を行なっていこうと職員全員が同じ思いで取り組んでいる。